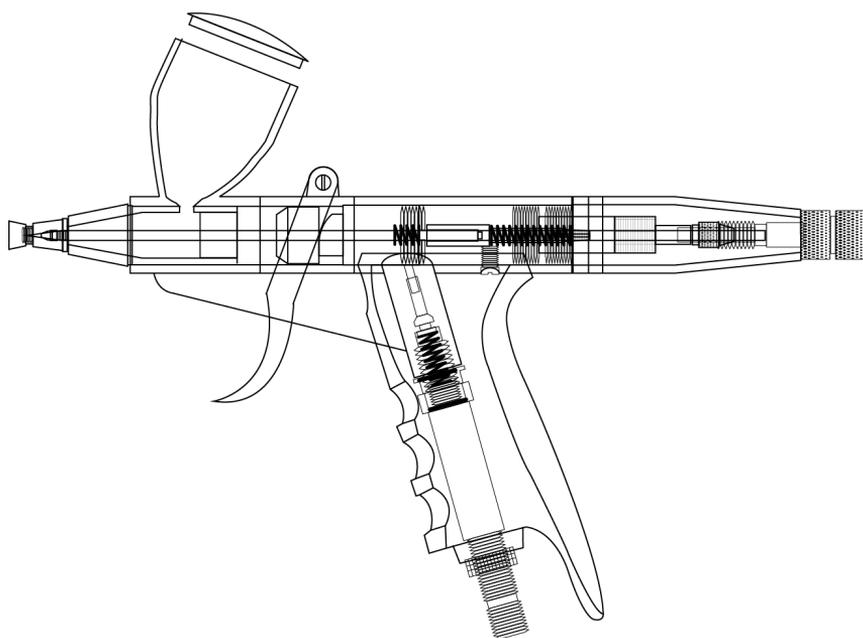




エアブラシ AW4シリーズ

AW-403,405

取扱説明書



この度はエアブラシAW4シリーズをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

本製品を安全にご使用頂く為に、必ず取扱説明書をお読みになり、使用方法を十分理解してからご使用下さい。こちらの取扱説明書は大切に保管して下さい。



エアブラシは塗装する為の道具です。それ以外の用途には絶対に使用しないで下さい。また塗料を噴霧する際には十分に換気をして、乳幼児やペットのいる環境では絶対に使用しないで下さい。

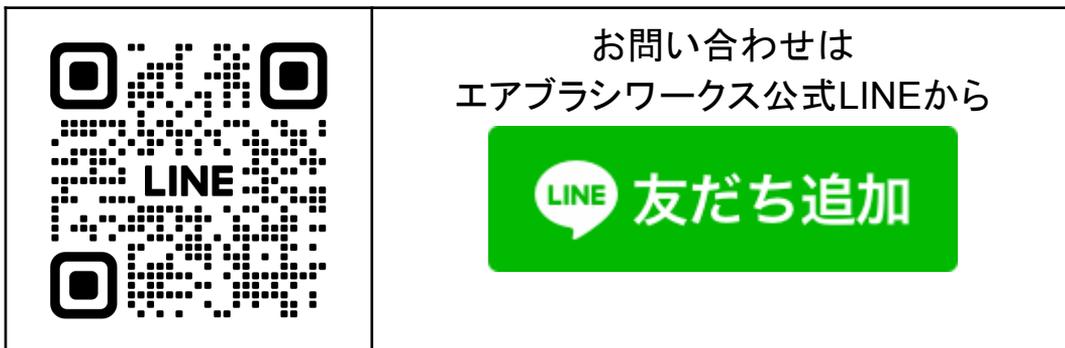
使用上の注意点

- 溶剤系の塗料を使用する場合は火気厳禁です。
- ニードルの先端は非常に鋭く危険な為取り扱いには十分注意して下さい。
- お子様だけでのご使用は避け、保護者の方の監視の元お使い下さい。
- 乳幼児やペットの居る環境での使用は絶対に使用しないで下さい。
- エアブラシは精密機械です。落下や強い衝撃にはご注意下さい。
- 塗装の際はマスクを着用し、十分な換気出来る環境でお使い下さい。

誤った使用用途による故障や事故や損害などが起きても、弊社では一切の補償、責任を負いかねます。使用中に異常がある場合、ただちに使用を中止して下さい。

製品保証とサポートに関して

当製品は購入後90日間の保証期間があり、初期不良に対しては保証が適用されます。保証に関するお問い合わせは、どうぞお気軽に【エアブラシワークス公式LINE】までご連絡ください。エアブラシサポートチームがスピーディーかつ丁寧に対応いたします。



保証対象外の場合

- お客様ご自身による破損
- 消耗品の自然な劣化
- 取扱説明書の指示に反した使用方法
- 適切なメンテナンスが行われていない場合

* 保証は天災など特殊な事情により変更される場合があります。

エアブラシワークスサポートチーム

エアブラシワークス公式LINEでは、専門知識を持ったエアブラシワークスサポートチームが、エアブラシに関するあらゆる質問に、迅速かつ丁寧にアドバイスを提供しています。製品に関するご不明な点がある場合にはお気軽にご相談ください。

故障と思われる前に

故障と思われる前に、**エアブラシのトラブルシューティングをご確認ください**。多くの場合、エアブラシは実際には壊れておらず、正しい調整や使用方法の理解不足が原因であることがあります。そのため、使用前には必ず取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いいただくことをお勧めします。

エアブラシのトラブルシューティング

ご使用前の注意事項

・本体に残ったテスト用の液体について

本製品は出荷前に全ての製品に吹付けテストを実施しております。そのため、テスト用の液体が本体に若干残っている場合がございます。予めご了承ください。

・ニードルの調整による塗料の漏れについて

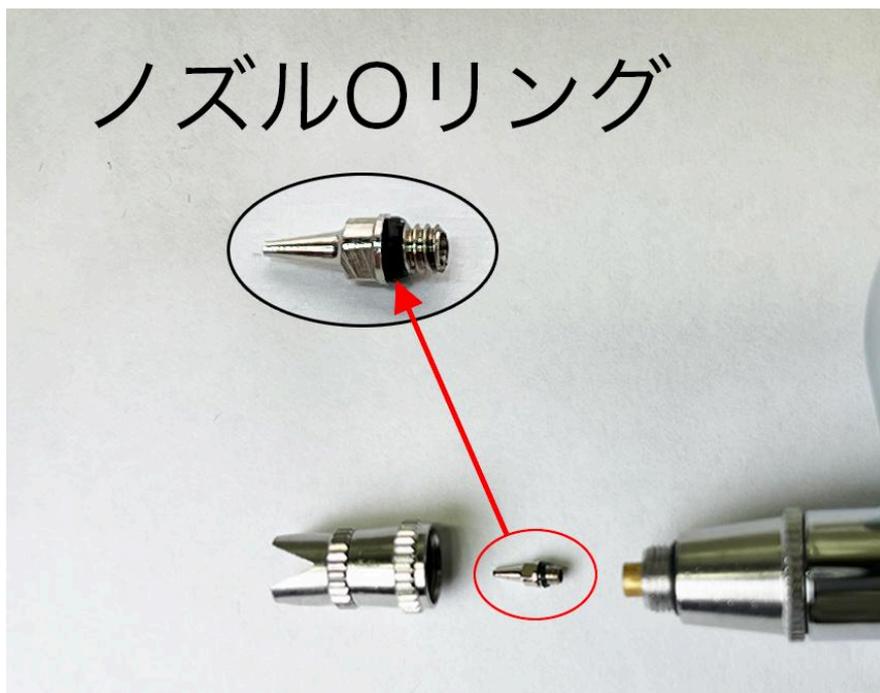
出荷前には、全製品に対してニードルの位置を最適な状態に調整しています。この「最適な位置」とは、塗料がギリギリ出ない位置を指します。この状態がエアブラシを最も扱い易くします。

しかし、塗料がギリギリ出ない位置が故に気温の変化などのわずかな環境変化により、ニードルの位置がずれることがあります。これにより、新品の状態であっても塗料が漏れてしまうことがあります。

ニードルの調整は、エアブラシの使用において全ユーザーが行うべき重要なメンテナンス作業です。したがって、新品時でもニードル調整によって解決可能な塗料の漏れは、**90日間の保証対象外**となります。

・清掃時のノズルの分解について

ノズルは使用後洗浄するたびに分解しないで下さい。ノズル周りは出荷前に最適な状態に調整されています。分解すると再調整が必要になる事と、ノズルに付いているノズルリングが消耗品である為、清掃の為に毎回分解していると、リングが破損して塗料カップにエアーが逆流してしまいます。ノズルの分解はノズル内にゴミが詰まったなど異常が起きた時や、定期的なオーバーホールの時だけにして下さい。



ノズルを分解した際に生じる不具合は保証の対象外となります。不具合が発生した際にはノズルを分解せずに、速やかにエアブラシワークスサポートチームにご連絡下さい。

どうしてもノズルを分解しなければならない場合、下記の解説ページを用意しておりますので、内容を良く理解した上で作業をして下さい。

[ノズルの分解について](#)

この3点については予めご理解いただけますと幸いです。

エアブラシAW-403,405

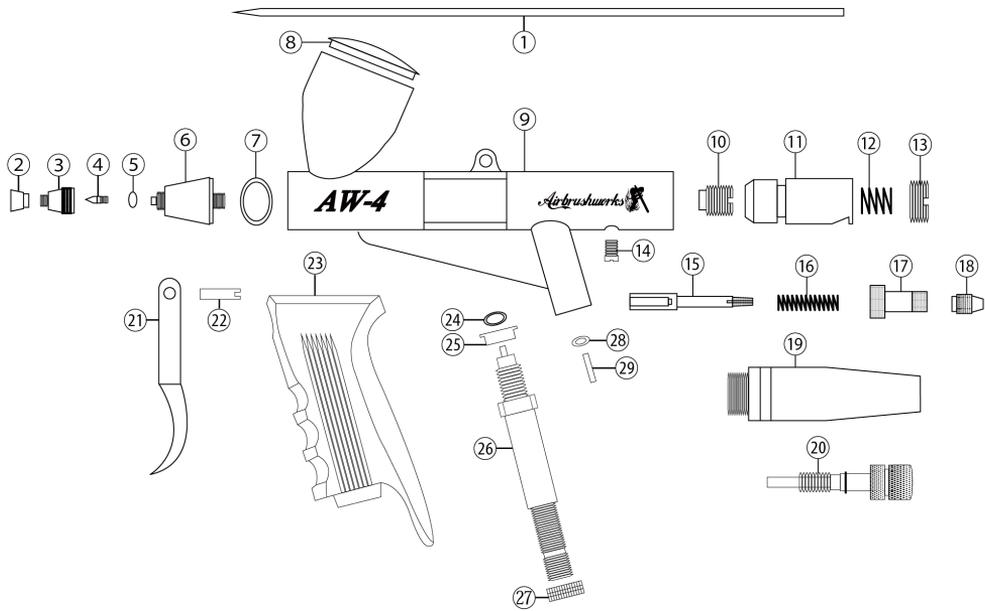
エアブラシワークスAW-4シリーズは、操作性と精度を追求したエアブラシです。0.3mmの口径を持つAW-403は細かいディテールや繊細な表現に適し、0.5mmの口径を持つAW-405は広い面積の塗装や厚塗りに最適です。どちらのモデルも、柔らかく滑らかなトリガーの操作感を持つトリガーダブルアクション方式を採用しており、長時間の使用でも疲れにくい快適な操作性と高い精度を提供します。精密なコントロールが求められる場面で、そのパフォーマンスを最大限に発揮します。



仕様表

動作方式	トリガーダブルアクション
ノズル口径	AW-403 0.3mm AW-405 0.5mm
カップ容量	7cc
最低圧力	0.08Mpa
最適圧力	0.14Mpa
最高使用圧力	0.4Mpa
最細ライン幅	AW-403 0.5mm AW-405 1.0mm

エアブラシAW-4シリーズ分解図



1	ニードル	15	ニードルガイド
2	ニードルキャップ	16	ニードルスプリング
3	ノズルキャップ	17	スプリングガイド
4	ノズル(Oリング付き)	18	ニードルナット
5	ノズルキャップOリング	19	テールキャップ
6	ノズルベース	20	ニードルアジャスター
7	ノズルベースOリング	21	レバー
8	塗料カップ蓋	22	レバー止めネジ
9	エアブラシ本体	23	グリップ
10	ニードルパッキン&ネジ	24	エアーバルブ止めネジパッキン
11	スライドカム	25	エアーバルブ止めネジ
12	スライドカムスプリング	26	エアーバルブアッセンブリ
13	ガイドネジ	27	グリップ止めネジ
14	ガイド止めネジ	28	ピストンOリング
		29	エアーバルブピストン

エアブラシの使用前の準備

1 コンプレッサーの選択

エアブラシを使用するためにはコンプレッサーが必須です。AW-4シリーズで最適な性能を得るためには、8L/min以上、できれば15L/min以上のコンプレッサーを推奨します。充電式コンプレッサーでも噴霧用途には利用できますが、AW-4の全性能を活かすには据え置き型のコンプレッサーをお勧め致します。

2 圧力の設定

AW-4シリーズの最適な圧力設定は0.14Mpaとなります。噴霧専用の場合は最低0.08Mpaの圧力でも使用可能です。

最大使用圧力は0.4Mpaとなります。それ以上の圧力で長時間使用するとエアバルブのパッキンが破損する場合があります。必ず0.4Mpa以下の圧力で使用して下さい。

3 塗料の選択と調整

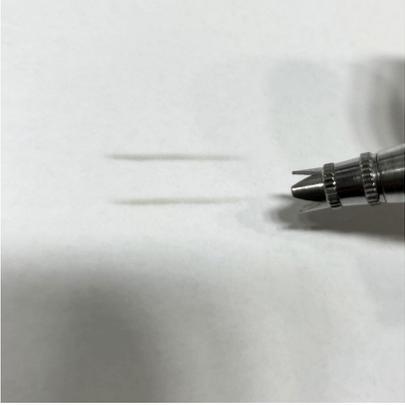
AW-4シリーズでは、各所パッキンにテフロンを採用しているため、溶剤系の塗料の使用も安心です。しかし、エアブラシの細いノズル特性上、粘度が高い塗料は適しません。粘り気のある塗料は、専用の希釈剤で適切な粘度に調整することを推奨します。

AW-4シリーズは精密な作業にも対応しており、特に口径0.3mmのAW-403は**サフェーサーやトップコートなど硬化する塗料の使用は推奨されません**。これらの塗料はエアブラシの機能を低下させ、AW-4の本来の性能を損なう可能性があるため、注意が必要です。

サフェーサーやトップコートなどを塗布したい場合「塗り」に特化したAW-2シリーズをお勧め致します。

4 ニードルキャップの取扱い

AW-4シリーズにはクラウンタイプのニードルキャップが標準装備されており、エアの流れを外側に逃がす設計のため、キャップ内部の塗料による汚れが少なくなっています。しかし、エアブラシの潜在能力を最大限引き出すためには、このキャップを取り外すことをお勧めします。特に、細かいディテール作業を行う際には、キャップの有無による明確な違いが見られます。細部の精密な作業をする場合は、より良い結果を得るためにキャップを取り外してください。この方法により、より緻密で繊細な塗装効果の実現され、アーティストの表現の幅が広がります。

キャップ装着時した状態	キャップ外した状態
	

5蓋の開け方

塗料カップの蓋は、出荷前に適切な硬さに調整されています。蓋が簡単に脱落すると、塗料がこぼれて作品を汚す恐れがあるため、ある程度の硬さに設定されています。蓋が硬い場合、以下の方法をお試しください。

蓋を上引っ張るのではなく、画像の様に爪を引っ掛けて開けます。

上に引っ張る開け方	爪を引っ掛ける開け方
	

上記の方法を試しても蓋が硬すぎて開かない場合や、蓋が緩くて脱落してしまう場合は、蓋としての機能を果たしていないため、保証の対象となります。エアブラシワークスサポートチームにお問い合わせ下さい。

エアブラシの操作方法

トリガー式エアブラシの持ち方

AW-4には大きなグリップが装備されており、これにより快適でしっかりとした握り心地が得られます。グリップを利き手でしっかりと握り、トリガーに人差し指をかけます。親指はグリップの背面に軽く当て、他の指でグリップを包み込むように握ります。トリガーは人差し指で操作し、エアーと塗料の供給をスムーズにコントロールできるようにします。この持ち方により、長時間の作業でも疲れにくく、正確な操作が可能です。

人差し指で操作する場合



グリップを利き手でしっかりと握り、トリガーに人差し指をかけます。この方法は、トリガーへのアクセスが容易で、精密なコントロールが求められる場面に適しています。

中指で操作する場合



手の大きさによっては、トリガーを中指で操作の方が快適に感じる場合があります。この持ち方は、より力強くトリガーを操作でき、長時間の使用でも疲れにくい利点があります。

繊細にコントロールしたい場合

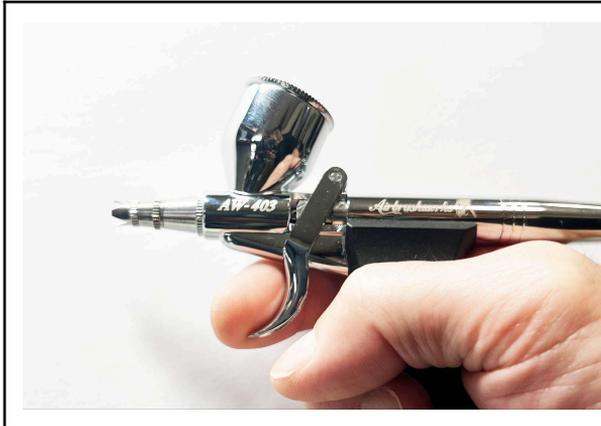


より繊細にエアブラシをコントロールしたい場合には、親指をトリガーに添える方法がお勧めです。これにより、トリガーの操作に微細な力加減が可能となり、非常に精密な作業を行う際に有効です。

トリガーダブルアクションの操作方法

AW-4エアブラシは、トリガーダブルアクション方式を採用しています。この方式により、エアーの供給と塗料の噴射を2段階でコントロールすることが可能です。トリガーの押し込み具合によってエアーのみを出すことができ、さらに引くことで塗料を噴射します。このシステムにより、非常に精密な塗装が可能です。

1 エアーを出す



トリガーを軽く引く

トリガーを軽く引くと、途中で少し抵抗を感じるポイントがあります。このポイントまでは、エアーだけが出ます。エアーのみで表面のほこりを吹き飛ばしたり、塗料を早く乾かすことができます。

2 塗料を出す



トリガーを引く

トリガーをさらに引くと、塗料が出るポイントに達します。このポイントからは、トリガーの引き具合によって塗料の量を調整できます。トリガーを引けば引くほど、より多くの塗料が出るので、目的に応じて噴射量を調整してください。

トリガー式エアブラシは、塗料を噴射する前に必ずエアーが先に出る仕組みになっています。そのため、押しボタン式のように、誤って塗料が先に出て飛び散るといったミスが起こりません。トリガーを引くだけでエアーと塗料が同時に出るため、初心者でも扱いやすく、安定した塗装が可能です。

重要！動作確認のお願い

AW-4エアブラシを使用する前に、必ず動作確認を行ってください。水や希釈剤などの粘度の低い液体を使用して、以下のポイントをチェックしてください。

1. エアーのみの確認

トリガーを僅かに引いて、エアーだけが出るポイントがあるかを確認してください。この時、液体が出ていないことを確認してください。

2. 液体の噴射確認

トリガーをさらに引き、液体が正常に噴射されるかを確認してください。スムーズに液体が出るかをチェックしてください。

3. エアーの逆流確認

塗料カップの蓋を開けて液体を入れ、トリガーを全開に引いた時に塗料カップ内にエアーが逆流していないかを確認してください。逆流が見られた場合は、使用を中止し、サポートチームにご連絡ください。

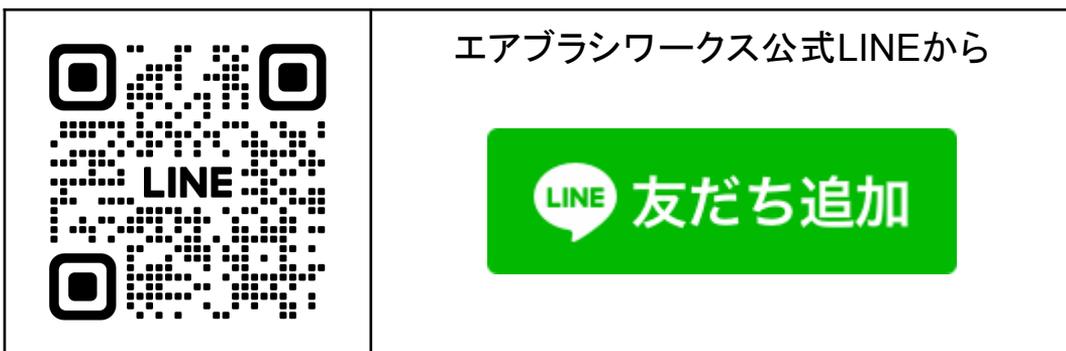
4. 異変を感じた場合の対応

動作中に異変を感じた場合は、ご自身で分解を試みず、速やかにエアブラシワークスサポートチームにご連絡ください。サポートチームが適切な対応を行います。

5. 保証に関する注意

ご自身で分解された場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。問題が発生した場合は、速やかにサポートチームにご連絡いただくようお願いいたします。

エアブラシワークスサポートチームへのコンタクトは下記からお願いします。



初期不良がある場合、90日間の保証を受けるためには、ご自身で分解せずに、速やかにエアブラシワークスサポートチームにご連絡ください。

塗料の混ぜ方

エアブラシAW-4シリーズで塗料を使用する際は、以下の手順に従ってください。

希釈剤の使用

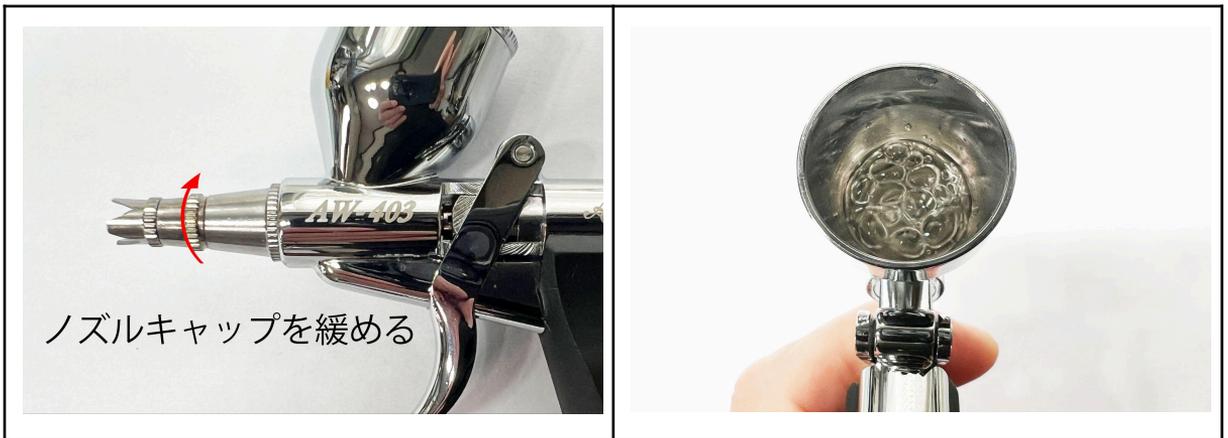
希釈が必要な塗料を使用する場合、まず希釈剤をエアブラシのカップに入れてください。その後、塗料を加えます。この順序で行うことで、塗料が均一に混ざりやすくなり、ノズルの先端に濃い塗料が溜まるのを防ぎます。

希釈不要の塗料

希釈不要の塗料は、直接エアブラシのカップに注ぎ入れてください。

塗料の混合

通常のエアブラシではニードルキャップの先端を抑えて塗料を逆流させて混ぜますが、AW-4のクラウンタイプのニードルキャップの場合、先端を抑えても隙間からエアが漏れてしまいます。そのため、キャップを付けたまま逆流させる場合はノズルキャップを数週緩める必要があります。



画像に示すようにエアを逆流させて塗料を混ぜ合わせると、約20～30秒で均一に混ざります。

ニードルキャップを外した場合

ノズルキャップを外した後、画像のようにエアブラシの先端を指で軽く摘むと、塗料を逆流させることができます。

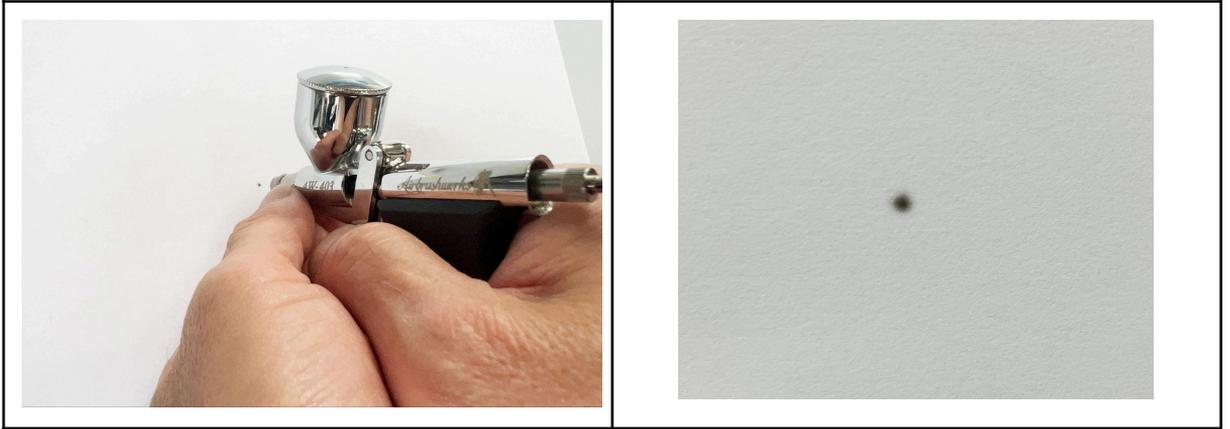


上手く逆流しない場合、ウエスや柔らかい布を使用して先端を摘むと良いでしょう。これにより、より密閉された状態を作り出し、効果的にエアの逆流を促進します。

エアブラシの使用方法

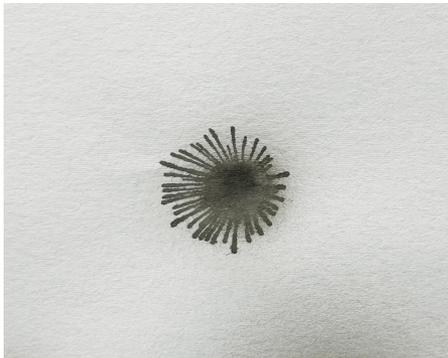
本製品はトリガーダブルアクションとなっており、トリガーを引くことでエアと塗料の両方を塗料を吐出出来ます。

エアブラシを対象物に近づけて、トリガーを僅かに引きながらドット(点)を吹いてみます。



エアブラシを対象物に近づけたので、小さなドットが描けます。

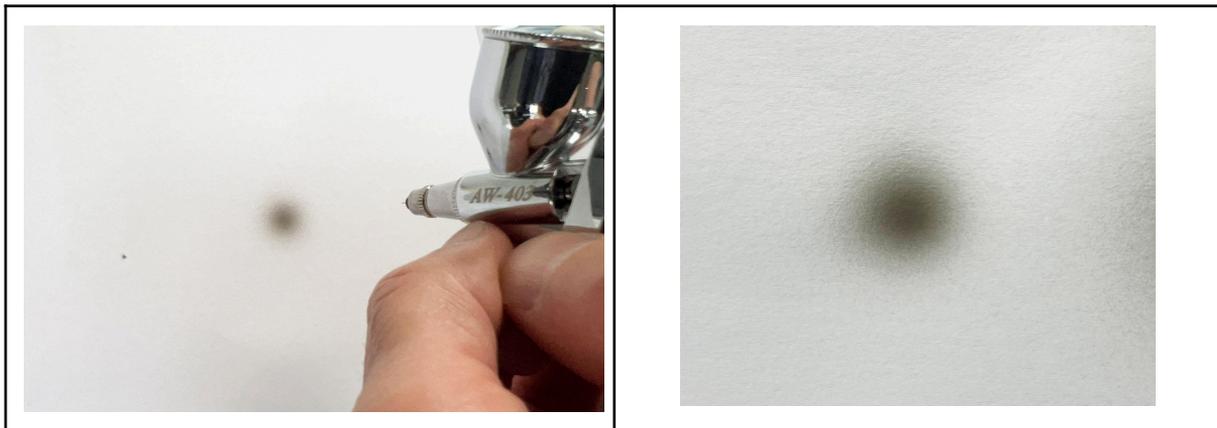
次は同じ距離でトリガーを沢山引きます。



すると塗料が滑って花火の様な模様が出来ます。

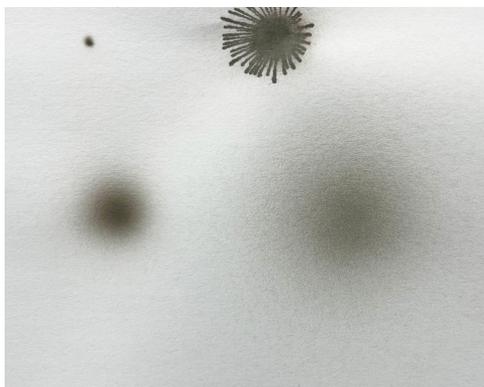
これは画面に付着した塗料が乾く前に次の塗料が付着して、塗料が滑っている状態です。

今度は距離を離してトリガーを少しだけ引いてみます。



先程よりも大きなドットが描けます。

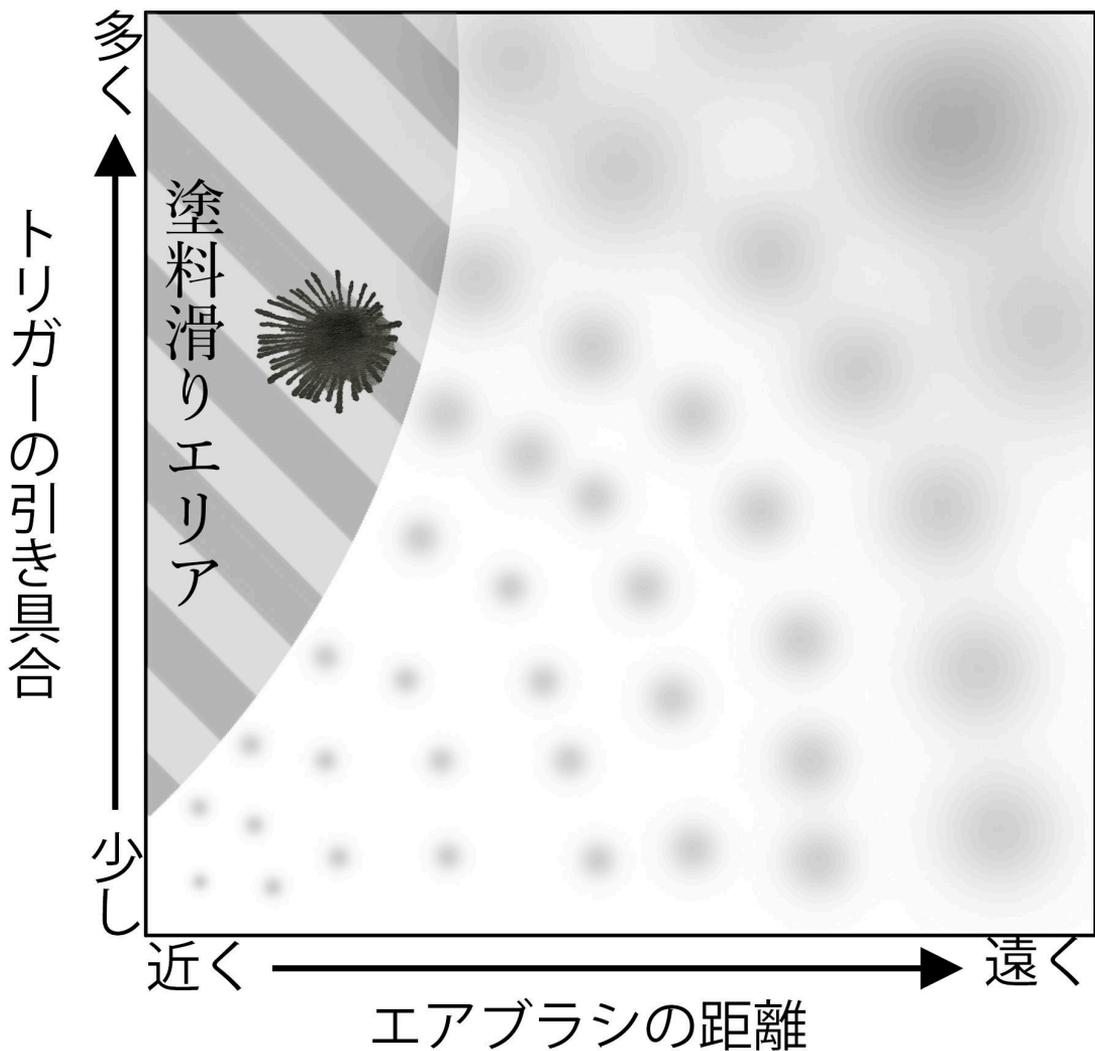
今度は同じ距離でトリガーを沢山引きます。



すると先程よりも数倍大きなドットが描けます。

エアブラシは距離とトリガーの引き具合でパターンの変化します。

エアブラシの塗装パターンの大きさ



エアブラシの塗装パターンは、「エアブラシと対象物の距離」や「トリガーの引き具合」によって変わります。トリガーを多く引くことで、距離を離すよりもパターンが広がるのがポイントです。

しかし、近い位置でトリガーを強く引きすぎると塗料が滑ってしまいます。このため、距離とトリガーの引き具合のバランスを練習し、適切な範囲での塗装をマスターしてください。注意点として、使用する塗料の粘度も影響を及ぼすため、希釈剤で調整して下さい。

ニードルアジャスターの使用方法

ニードルアジャスターは、エアブラシの塗料の吐出量を一定に保つための機能です。このアジャスターを調整することで、トリガーを全開に引いた際の塗料の流量をコントロールできます。



ニードルアジャスターを絞ることで、塗料の吐出量を限定し、細いラインの描画など、一定の流量を要する作業に適します。特に初心者にとって、この機能は細かい作業を行いやすくするために有効です。

しかし、エアブラシの長所はトリガーの操作により吐出量をリアルタイムに調整できる柔軟性にあります。ニードルアジャスターを使用して吐出量を制限すると、この柔軟性が制約されてしまいます。

したがって、エアブラシの操作に慣れた後は、ニードルアジャスターを全開の位置に設定し、トリガーを自由に操作することをお勧めします。これにより、エアブラシの全機能を最大限に活用し、多様な塗装技術を実現することができます。

エアブラシ練習方法のお勧め

弊社が20年以上運営していた「エアブラシアートスクール」の内容をオンラインプラットフォームに再現し、会員登録するだけで、リアルスクール1ヶ月分のカリキュラムを無料で学ぶ事が出来ます。

エアブラシアートだけでなく、プラモデルやメイクなど様々な使用用途の方にもこのカリキュラムでエアブラシの基本操作を応用出来ます。有料エリアもありますが、無料エリアだけでも本格的なプロが教えるエアブラシの基本操作を学べますので、是非この機会にエアブラシの基本操作を学んでみて下さい。

[エアブラシオンラインスクール入門編](#)



エアブラシのメンテナンス方法

エアブラシは精密な機器であるため、使用後の丁寧な掃除と定期的な分解によるメンテナンスが必要です。

* 本章で説明しているメンテナンス方法の画像は、**AW-1**エアブラシのものを使用していますが、**AW-4**でも同じ手順でメンテナンスを行うことができます。画像と**AW-4**の外観が異なる場合がありますが、手順は共通ですので、そのまま参考にしてください。

使用後の掃除

水性塗料の場合



水性塗料を使用した後は、水道水やバケツに水を張って洗浄します。



エアブラシから水が透明になるまで、水を逆流させて内部を洗い流します。ただし、逆流だけではノズル内部に空気しか入らないため、吹き付けと逆流を交互に繰り返すことが効果的です。



塗料が固まってしまった部分は、洗浄液と硬めの筆（豚毛の平筆がお勧め）を使用して、固まった塗料を溶かしながら洗浄します。この方法で、エアブラシの内部を綺麗に保つことができます。

溶剤系塗料の場合



シンナーなどの洗浄液をエアブラシのカップに入れます。吹き付けと逆流を交互に行い、洗浄液が透明になるまで繰り返して内部を洗浄します。



ウエスや固めの筆などで周りに付着した塗料を洗浄します。



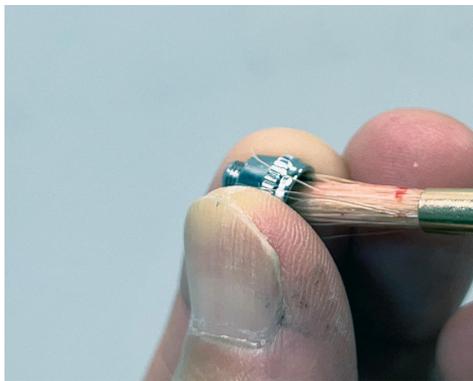
最後にシンナーなどの洗浄液をもう一度エアブラシに入れて逆流させます。この時、洗浄液が透明になっていれば、内部が十分に洗浄されていることを示しています。

ノズル周りの清掃

水性塗料、溶剤系塗料のどちらの塗料でも使用後は毎回ノズル周りの清掃をします。



ノズルキャップを外して確認します。画像の様に塗料が付着していたら掃除が必要です。



筆やウエスなどで洗浄します。

ノズルキャップの内側は、エアブラシでエアが通過する重要な通路です。汚れがたまるとエアブラシの性能に影響を与え、調子を悪くしてしまうことがあります。**もしエアブラシの動作が不調になった場合、まずノズルキャップ内部の清掃を試みることをお勧めします。**このシンプルなメンテナンスが、多くの場合、問題の解決につながります。

定期的なメンテナンス

定期的なメンテナンスはエアブラシを全て分解するオーバーホールを行います。エアブラシは構造上長く使用しているとニードルパッキングが緩んでテールエリアに塗料が漏れて来ます。塗料がテールエリアに漏れ出すと初期段階としてエアーが止まらない現象が現れます。そのまま使用していると、2次的なトラブルを次々と発生させますので、エアーが止まらない現象が起きた時点で全て分解してオーバーホールをお勧めします。

オーバーホールは弊社から発売している「エアブラシメンテナンAll-in-oneキット」を使用すると便利です。下記のリンクには「エアブラシメンテナンAll-in-oneキット」とエアブラシのオーバーホールの手順が記載されていますので、参考に見て下さい。

エアブラシメンテナンAll-in-oneキット



ニードルの調整方法

ニードルの調整は全てのユーザーが行うべき重要なメンテナンス作業です。出荷時にベストな位置で調整してありますが、気温など少しの環境変化でニードルの位置が変わりますので、お客様ご自身で再調整が必要となります。



テールキャップを取り、ニードルナットを緩めます。軽く緩める程度で良いです。



エアーだけを出しながら塗料の止まる所までニードルを奥に押しします。

塗料が漏れないギリギリの状態がエアブラシを最も扱い易くします。

塗料が止まらない場合、ニードルを更に奥に押し込んでください。AWシリーズのノズルは銅製で強度が高いため、多少強く押し込んでも変形しません。塗料が漏れてしまうノズルは調整次第で扱い易いエアブラシにもなります。

調整しても塗料が漏れてしまう場合、初期不良のみ保証の対象となります。サポートチームにお問合せ下さい。塗料を入れて使用したエアブラシについてはゴミが詰まっている可能性がある為、保証の対象外とさせていただきます。

スプリングガイドの調整方法

スプリングガイドは、エアブラシのトリガーを引く際の硬さの調整に使用します。この部品を締めるとボタンが硬くなり、逆に緩めると柔らかくなります。自分の好みに合わせて調整してください。



AW-4の場合、スプリングガイドの調整範囲が限られている為、硬さの調整はほぼ出来ませんが、緩め過ぎるとテールキャップを奥まで締める事が出来なくなってしまいます。画像程度の締め具合が良いでしょう。

エアバルブ周辺の注意事項

エアバルブの露出



グリップを取り外すと、エアバルブが露出します。この部分は非常に繊細で、取り扱いに注意が必要です。

保証に関する注意

エアバルブ周辺を分解した場合、保証の対象外となります。エアーが出ないなどの不具合が発生した際は、ご自身で分解を試みず、速やかにエアブラシワークスサポートチームにご連絡ください。

エアバルブの分解と調整

エアバルブを分解すると、エアーの出方が変わる可能性があります。この場合、再度適切な調整が必要となります。分解が必要な場合は、「エアブラシAW-4オーバーホール手順」を参考にしてください。

分解方法の参考資料

基本的にエアバルブの分解は推奨されませんが、AW-4のオーバーホールが必要な場合には、当社のオーバーホール解説記事をご参照ください。記事では、分解および調整方法を詳しく解説しています。

[エアブラシAW-4オーバーホール手順](#)

ニードルとノズルの交換について

ニードルとノズルは消耗部品です。消耗したら交換が必要になります。

ニードルを曲げてしまった場合

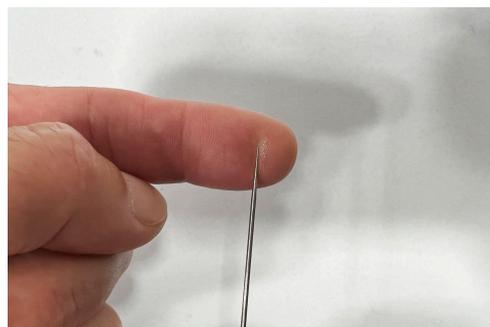


ニードルを曲がった場合ピンセットなどでも補修が可能ですが、一時的な処置となります。少しでも曲がっていると細い線が出ませんので、交換が必要です。

ニードルの先端は非常に鋭利に作られています。少し当たるだけでも曲がってしまいます。本体に挿入する時も慎重に挿入して下さい。また非常に鋭利な為十分注意して扱って下さい。

ニードルは、目に見えないわずかな曲がりでも、塗料がその曲がり部分に付着し、塊となって定期的に噴出し、作品を汚してしまう原因となります。塗料の塊が定期的に出てくる場合、ニードルの曲がり原因である可能性が高いです。

目に見えないわずかな曲がりの確認方法



画像のように、ニードルを指で軽くなぞってみます。人の指先は数ミクロンの段差を感知できるとされています。もし引っかかる感覚があれば、それはニードルが曲がっている証拠です。

曲がっていた場合、ピンセットなどで修理するか、交換して下さい。

ノズルの分解

重要注意事項！

ノズルを分解すると、さまざまなトラブルを引き起こす可能性があります。ノズルを分解すると保証の対象外となりますので、不具合が出た場合、90日の保証期間のある方はノズルを分解せず、速やかにエアブラシワークスサポートチームにご連絡下さい。

ノズルの分解について

エアブラシの構造上ノズルやニードルは消耗部品となる為、どうしてもノズルの分解が必要になる場合があります。ノズルを分解する事によって不具合が発生した場合、壊れている訳ではありませんので、以下の解説を理解し、適切に作業を行うことで、問題なくエアブラシを動作させることができます。

ノズルの分解、交換時期

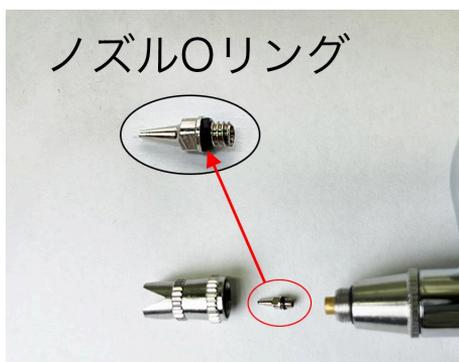
以下の症状になった場合ノズルの脱着、交換が必要です。殆どのエアブラシのトラブルはノズル周りから発生する為、ノズルを交換すると症状が改善される場合が多いです。

- エアブラシ落下などによるノズルの変形や破損
- ノズル内部にゴミが詰まり、取り出せなくなった場合
- 塗料カップからエアーが逆流する場合
- エアブラシの調子が出ない(細い線が描けない)

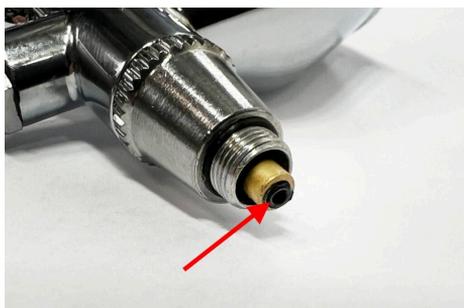
ノズルの分解、交換方法



取り外しはレンチを使用し、左側に回して下さい。右側に回した場合簡単に折れてしまうのでご注意下さい。



ノズルを取り外したら、ノズルOリングがノズルに付いている事を確認して下さい。



ノズルを分解するとエアブラシ本体にノズルOリングが残っている場合があります。



ノズルOリングが画像の様に外れかけている場合もあります。

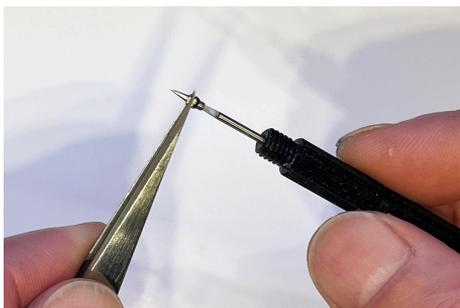


どちらの場合も取り付ける前に正常な位置に付けて下さい。

ノズルOリングが上手く取り付け出来ない場合、ノズルOリングを取り外してノズルシール剤を塗布する方法もあります。(下記に説明ページがあります)



不具合がありノズルを分解した場合、ルーペなどでノズルの変形がないか、内部にゴミが詰まっていないかを確認します。ルーペを持っていない場合、スマホで撮影して拡大すると確認出来る場合があります。



ゴミが詰まっていた場合、メンテナンスニードルや古いニードルなどで取り出します。



複数本エアブラシを持っている方は、他のエアブラシに洗浄液を入れて、ノズル内部に吹付け洗浄をします。

変形していた場合や、ゴミを取り出せなかった場合、ノズルを交換して下さい。ノズルなどの消耗パーツは下記のサイトから入手可能です。ノズルやニードルは消耗パーツなので、いくつかのストックをしておく事をお勧めします。

[AWシリーズ消耗パーツ](#)

ノズルの取り付け



ノズルを指で締め、手で止まったところから、レンチで数ミクロン(ごくわずか)回す程度にしましょう。

締め過ぎると簡単に折れてしまうので、慎重に締めて下さい。

ノズルを分解して組み付けた際には下記の3点に

注意して下さい。

1. ノズルのセンター調整
2. ノズルのシール
3. ノズルの締め過ぎによる破損

次ページからひとつずつ説明致します。

1、ノズルのセンター調整

ノズルは分解するだけでノズルのセンター位置がずれてしまいます。ノズルの位置がずれていると、塗料を正常に噴霧出来なくなります。このため、**ノズルを分解するたびにセンター位置の調整が必ず必要となります。**



プライヤーやその他の道具を使って調整は可能ですが、「エアブラシメンテナンスキット」に含まれる「ノズルセンターツール」を使うと作業が簡単になります。

具体的な使用方法については、ノズルセンター出しの解説ページを用意してあります。下記をご参照下さい。

[ノズルのセンター出し](#)

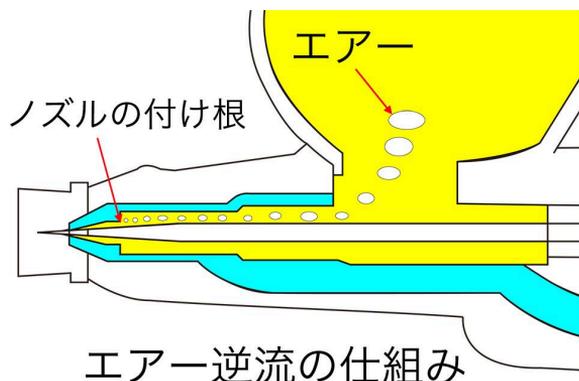
2、ノズルのシール

先程の説明の通りノズルにはノズルOリングがあり、塗料の通路とエアの通路を隔てる役割があります。ノズルOリングは消耗品の為、ノズルの脱着を繰り返していると、Oリングが消耗してシール効果がなくなります。



ノズルのシール効果が不十分の場合、エアが塗料の通路に入り込んで塗料カップに逆流します。お客様からは「うがい状態」という表現でお問い合わせが届きます。

エア逆流の仕組み



エア逆流の仕組みは、図の水色のエア通路から黄色の塗料通路に、破損したノズルの付け根からエアが入り込み、ブクブクと逆流します。

原因の殆どは頻繁なノズルの分解から起こるノズルOリングの損傷です。

もし、ノズルを分解していないのに逆流が起こった場合、90日以内であれば保証の対象となりますので、サポートチームにお問い合わせ下さい。

(注意)エアが逆流すると返品されたお客様のエアブラシの中にはノズルキャップの緩みが原因の物もありました。まずはノズルキャップの緩みを確認して下さい。

エア逆流の直し方

エアが逆流した場合ノズルOリングを外して「ノズルシール剤」を塗布して下さい。頻繁にノズルを分解しなければならない方も、いずれノズルOリングが損傷しますので、ノズルOリングを外して「ノズルシール剤」を塗布する事をお勧めします。

ノズルシール剤の塗り方



はじめに、ノズルリングが付いている場合は取外して下さい。

ノズルをピンセットなどで摘み、ノズルシール剤をネジ部分に塗ります。ノズルの穴に入らない様に付け過ぎに注意して下さい。



ノズルレンチで取り付けます。締め過ぎると簡単に折れてしまうので、止まった所から少しだけ増し締めする程度に締めます。



はみ出したノズルシール剤をウエスなどで拭き取ります。

ノズルシール剤は乾燥する事はありませんので、特に乾燥時間などはなく、取り付けてすぐに使用可能です。

ノズルシール剤を塗布しても逆流する場合、ノズルシール剤を多く塗布し、ノズルを増し締めして下さい。

3、ノズルの締め過ぎに注意



ノズルを強く締めると簡単に折れるので、締め過ぎに注意して下さい。ノズルが折れてしまった場合下記の記事を参照して下さい。

[折れたノズルの取り出し方](#)

ノズルの組み付けには以上**3点**にご注意下さい。

トラブルシューティング

エアブラシの操作中に何らかの問題を感じた場合は、以下のトラブルシューティングの指針をご参照ください。これらは弊社が20年以上にわたり運営してきたエアブラシスクールでの経験と、そこで受けた膨大な質問に基づいて構築されたものです。このガイドは、エアブラシのほとんどの一般的なトラブルに対する解決策を提供し、迅速に問題を解決するための助けとなることでしょう。

エアブラシのトラブルシューティング

症状1 塗料が出ない

症状2 塗料は出るが調子が悪い

症状3 塗料の塊が定期的に出る

症状4 エアーが出ない(空気が出ない)

症状5 エアーが止まらない

症状6 エアーが僅かに漏れる

症状7 細い線が出ない

症状8 エアーが逆流する(うがい状態になる)

症状9 塗料が漏れる

症状10 ニードルが動かない

症状11 線が途切れる

症状12 エアブラシから水が出てくる

エアブラシワークス

【エアブラシワークス】は、エアブラシアーティストChuutaが創設したエアブラシブランドです。自ら操作する観点から、ユーザーにとって扱い易いエアブラシを追求し、さまざまなエアブラシワークの可能性を広げます。

エアブラシワークス	エアブラシオンラインスクール
AWシリーズストア	エアブラシアフターパーツ

	<p>お問い合わせは エアブラシワークス公式LINEから</p> 
---	---

販売元
株式会社エアブラシワークス
<https://airbrush.works>
〒420-0801
静岡県静岡市葵区東千代田1-7-4 2F
Tel.054-689-2976
info@airbrush.works

